

Rubyの日本語リファレンスマニュアルの現在と未来

Kazuhiro NISHIYAMA

株式会社Ruby開発

松江Ruby会議11
2024-10-05

self.introduction

- 西山 和広
- 株式会社Ruby開発 www.ruby-dev.jp
- github など: @znz
- Ruby のコミッター
- <https://github.com/rurema> の管理者

アジェンダ

- るりまの説明
- 現状
- やりたいこと
- 手伝ってほしいこと

るりまとは？

- Japanese Ruby reference manual
Rubyリファレンスマニュアル刷新計画
- <https://github.com/rurema>
 - [rurema/doctree](#) - ドキュメントのソース
 - [rurema/bitclust](#) - るりま用の独自システム
 - [rurema/generated-documents](#) - 生成したHTML

閲覧用サイト

- 公式サイト <https://docs.ruby-lang.org/ja/>
 - <https://docs.ruby-lang.org/ja/latest/> 常に最新安定版
 - <https://docs.ruby-lang.org/ja/3.3/> バージョンごと
 - <https://docs.ruby-lang.org/ja/3.2/> バージョンごと
 - <https://docs.ruby-lang.org/ja/master/> 常に開発版
- ゐりまサーチ <https://docs.ruby-lang.org/ja/search/>
 - Groonga, Rroonga を使った専用検索システム

ドキュメント更新の流れ

- rurema/doctree のドキュメントを更新
 - **RD** という「Rubyリファレンスマニュアル刷新計画」以前のドキュメントで使われていた記法ベースにした **bitclust** 独自記法
- bitclust で変換
 - バージョンごとの独自データベースに変換
 - **るりまサーチ** もこのデータベースを参照している
 - rurema/generated-documents の GitHub Actions で HTML 生成して rurema/generated-documents に反映
- docs.ruby-lang.org に反映
 - git pull して反映、るりまサーチのインデックス更新

ドキュメントの内容の現状

- 最近のバージョンにおいていないところがある
 - 何がおいついていないのかもまとまっていない
 - メソッドごとの対応はしやすいので、かなりおいついている?
 - 文法の変更などの対応状況は未確認
 - NEWS の翻訳もおいついていない

今後の予定

- bitclust の Markdown 対応
 - 貢献してもらいやすくするため
- bitclust の使い方のドキュメントをまとめなおし
- `docs.ruby-lang.org/ja/` の改善

Markdown 対応の残作業

- bitclust への型付けをしつつコードリーディングの続き
 - 現在作業中
- kramdown への型付け (まだなければ)
- 開発環境の devcontainer 化 (bitclust 開発者向けと doctree 執筆者向け)
 - devcontainer の設定は入れた
- bitclust の markdown 対応

rurema の markdown 対応

- bitclust に markdown 対応機能追加
- markdown 移行前に doctree の pull request 一掃
- doctree で markdown に一部書き換え
- doctree の書き換えでわかった bitclust で markdown 対応の問題点修正
- rurema-search の markdown 対応

rurema の markdown 対応

- doctree で全面的に markdown 対応
- doctree の RDベース記法のドキュメント削除
- bitclust から RD 対応を削除

同時やること

- bitclust の使い方のドキュメントをまとめなおし
 - コントリビュートしてもらった時の手順など
 - 現在は使えなくなっているツールなども残っているかも
- ドキュメント執筆補助ツール (bitclust の tools) 再整備
 - 使えないものを削除するなどの整理

その他のやりたいこと

- irb でのドキュメント表示対応
- サンプルコードの ruby.wasm での実行対応
- rurema/generated-documents の生成済ファイル汎用化
 - 埋め込まれているタグなどの関係で docs.ruby-lang.org 専用
→ うまく分離したい

docs.ruby-lang.org 関連

- docs.ruby-lang.org の環境軽量化
 - HTML 生成部分は GitHub Actions 化完了
- <https://github.com/ruby/docs.ruby-lang.org>にある ansible の playbook も現状と合わないので EC2 インスタンス作り直し? 別環境へ移行?
- 脆弱性のある古い js の対処 (あれば)
 - 古い jquery などが残っているかどうかなどの確認から

docs.ruby-lang.org 関連(できれば)

- 古いバージョンの db-* の再生成
 - るりまサーチで古いバージョンの検索ができない
- HTML 配信元を EC2 から S3 バックエンドか何かに移行(?)
 - rurema-search は生成されるインデックスだけで 600M 越え (heroku の slug の 500M 制限超過) で静的ファイルのホスティング + Heroku への移行は無理そう

今でも手伝ってほしいこと

- ドキュメントの更新
 - メソッドの追加・変更・削除あたりは手をつけやすい
 - 「Ruby x.y 対応」の issue の作成やメンテナンス
 - 未翻訳の NEWS などの翻訳
 - 文法などのクラスやメソッド以外のドキュメントの構成
- 開発ドキュメントの更新
 - bitclust の使い方のまとめなおし
 - pull request 作成までの動作確認方法など
 - よく使うコマンド一覧の作成など
 - 現在は使えない機能や制限があれば追記

MD 対応で手伝ってほしいこと

- Markdown 対応前
 - 型に詳しい人は ruby-jp Slack の #types で相談にのってほしい
- Markdown 対応時
 - RD から Markdown への書き換え
 - 書き換え時にあった問題点の報告
- Markdown 対応後
 - Markdown でのドキュメント更新

最後に

- ドキュメントの誤字脱字なども含めて <https://github.com/rurema/doctree/issues> でいつでも受け付け中
- issues に対応してくれる人も増えてほしい
 - 人が少ないので放置されがちかも
- pull request のレビューをしてくれる人も増えてほしい
 - pull request 作成までの手順とかもまとまっていると良さそう
- 何かあれば ruby-jp Slack の #rurema もどうぞ